

ローカル・ゼブラ政策について

中小企業庁 経営支援部 商業課

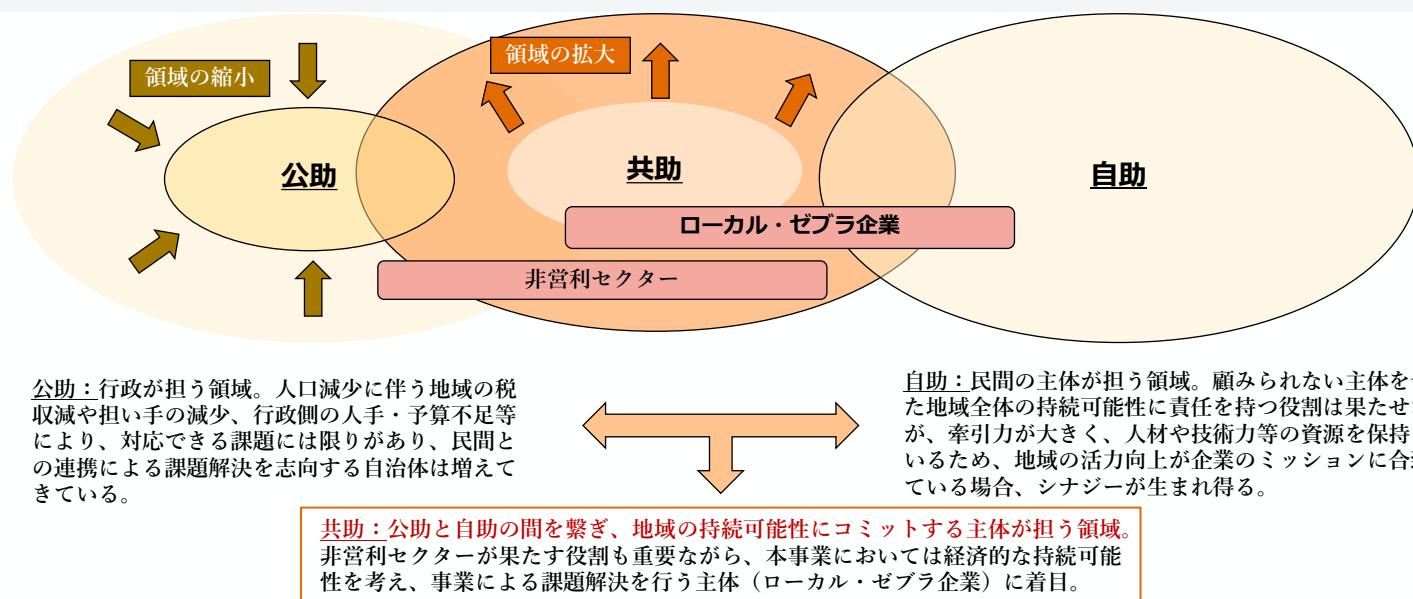
ローカル・ゼブラ政策について

令和8年1月

中小企業庁 商業課

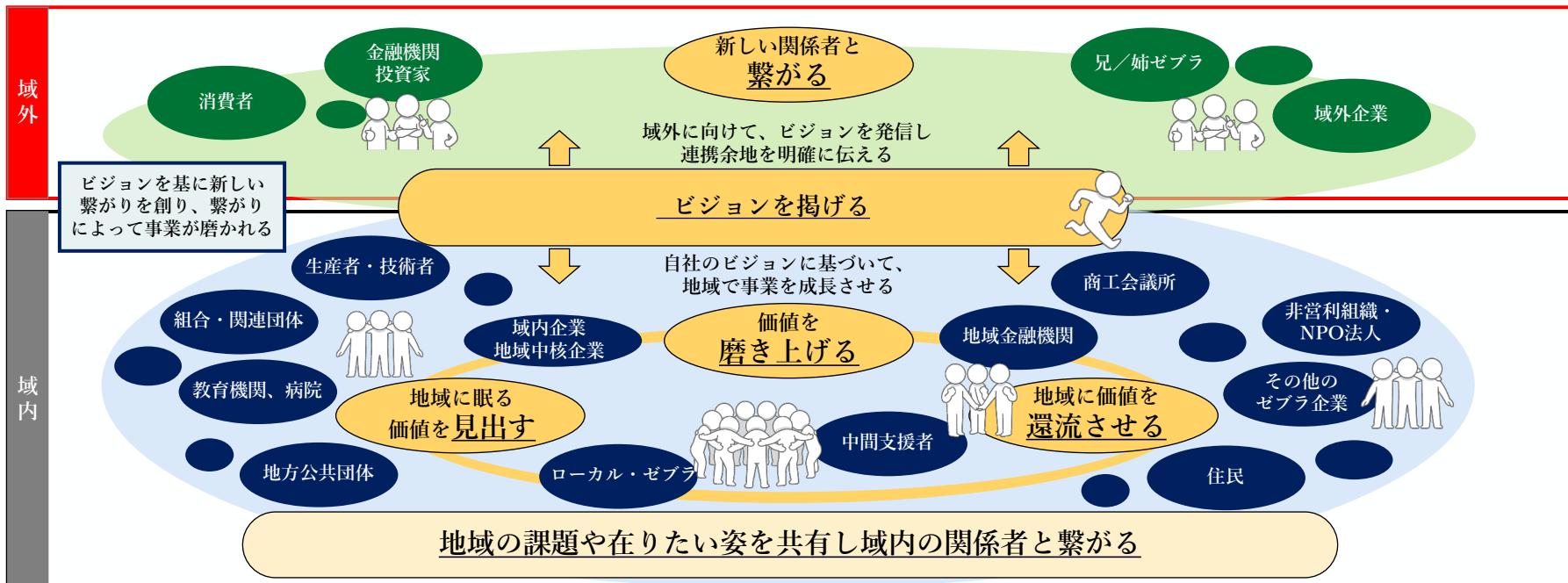
ローカル・ゼブラ企業の存在意義

- ・ ゼブラ企業とは、社会課題解決と経済性の両立を目指す企業を、白黒模様、群れで行動するシマウマに例えて命名された。中小企業庁では、このうち、地域資源を活用し、地域の課題解決に取り組むローカル・ゼブラ企業の育成を行っている。
- ・ 少子高齢化等の影響で人口が減少し、市場が縮小する時代において、公的セクター（公助）や資本市場（自助）の間で拡大する「共助」の範囲担う存在が地域には必要である。
- ・ これまで非営利セクターが担ってきたが、共助領域の拡大や技術の進展に伴い、ビジネスの手法で共助の領域を担う、ローカル・ゼブラ企業が活躍できる領域も広がっている。



ローカル・ゼブラによる課題解決のエコシステムの強化に向けて

- ローカル・ゼブラ企業は、ビジョンの実現に向けて、地域の価値を見出す・磨き上げる・還流させるために取り組み、業種を問わず域内外の様々なステークホルダーと連携しながら事業を進めている。
- ローカル・ゼブラ企業と地域のエコシステムは、地域のビジョンを共有し、地域内外のステークホルダーとつながることで強化されることとなる。



地域事業づくり会社について

- ・ 地域事業づくり会社とは、地域のローカル・ゼブラ企業をとりまとめ、域内外の中堅・中核企業や大企業等との連携を実現し、域内外から経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を呼び込み、循環させる仕組み（地域エコシステムの強化事業）を展開する事業者。
- ・ 地域事業づくり会社は従来の中間支援団体とは異なり、自ら地域エコシステムの強化事業を担い、例えば、域内外の経営資源の受け皿となり、各ローカル・ゼブラ企業への分配機能を担うことで、ローカル・ゼebra企業による課題解決が行われる基盤整備を図ることを想定。



地域事業づくり会社の仕組・型の例

